CONTENTS

はじめに 2
本書の使い方 6
DVD の使い方 8

第１章　手話と手話技能検定の概要

（１）コミュニケーションとしての手話 12
（２）手話技能検定の概要 17

第２章　４級レベルの単語と例文

（１）単語①人間・食べ物・動物 20
（２）例文①人間・食べ物 34
（３）単語②生活・スポーツ・感情・趣味・乗り物 35
（４）例文②生活・感情・趣味 57
（５）単語③形容詞・副詞など 58
（６）例文③形容詞・副詞 72
（７）単語④社会・施設・数 73
（８）例文④社会・施設 91
（９）単語⑤地名 92
（10）例文⑤地名 110
（11）単語⑥動詞 111
（12）例文⑥動詞 128

第３章　３級レベルの単語と例文

（１）単語①趣味 130
（２）例文①趣味 136
（３）単語②食べ物・飲み物 137
（４）例文②食べ物・飲み物 146

（5）単語③教育 147
（6）例文③教育 153
（7）単語④自然・科学 154
（8）例文④自然・科学（現象・名称） 162
（9）単語⑤乗り物・建築物 163
（10）例文⑤乗り物・建築物 168
（11）単語⑥数字（時間・距離・金額など） 169
（12）例文⑥数字（時間・距離） 175
（13）単語⑦国名・地名 176
（14）例文⑦国名・地名 180
（15）単語⑧形容詞・副詞 181
（16）例文⑧形容詞・副詞 194
（17）単語⑨生活 195
（18）例文⑨生活 211
（19）単語⑩医療機関 212
（20）例文⑩医療機関 223
（21）単語⑪社会 224
（22）例文⑪社会 253
（23）単語⑫感情・性格・態度 254
（24）例文⑫感情・性格・態度 273
（25）単語⑬動詞 274
（26）例文⑬動詞 318
（27）単語⑭接続詞・助詞・特定の固有名詞など 319
（28）例文⑭接続詞・助詞 337
●指文字表 338
●索引 340

1 本書の使い方

（1）本書の概要

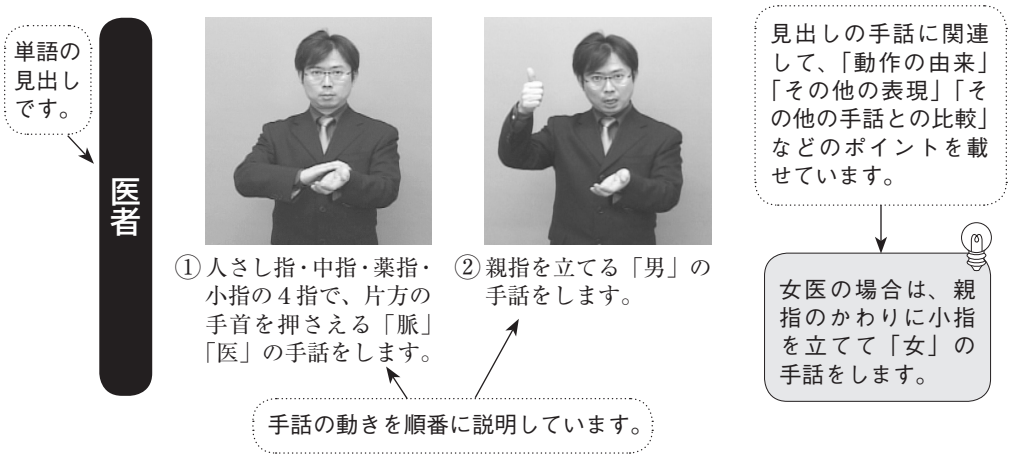
本書は手話技能検定試験４級および３級の公式テキストとして、手話技能検定３・４級の試験範囲のうち３・４級で学習する単語と例文を網羅した教材です。

巻末には、７級に相当する指文字 50 音と、アルファベット 26 字も指文字表として利用できるよう収録しています。なお、５級までに履修する単語・例文については、弊社の『手話技能検定公式テキスト５・６・７級』をご参照ください。

実際の検定試験は、モニターに流されるビデオ映像を見ながらの読み取り試験になります。本書の例文教材ＤＶＤで、雰囲気をつかんでください。

①出題単語について（本書の見方）

各単語について、写真を使って次のように解説しています。



※出題される単語の範囲は、変更されることもあります。受験を希望される方は、最新の試験範囲集で確認してください。

②出題例文について

試験範囲の例文の中にある（　）内の単語・数字等は、受験級に該当する単語・数字等から、ふさわしいものに入れ替わる場合があります。このため、（　）のある例文に関しては、そのままの文章で出題されるとはかぎりません。

（例）あなたの（名前）は何ですか？

↑ この部分が、以下のように入れ替わります。

あなたの 仕事　は何ですか？

あなたの 趣味　は何ですか？

※出題される例文の範囲は、変更されることもあります。受験を希望される方は、最新の試験範囲集で確認してください。

（2）掲載手話について

①手話表現について

本書の写真とＤＶＤに載せた手話は、「中間手話」を基本としています。このため、「日本手話」という注記がないかぎり、「中間手話」による手話表現となります（「中間手話」とひと口に言っても、使用者によって、若干の違いがあります）。

②利き手について

本書の写真では、右利きの方が手話をする場合の解説をしています。しかし、手話自体に左右の別はありません。このため、右手・左手と解説している場合、左利きの方は、利き手・非利き手とご理解いただき、右手と左手を置き換えてください。

③複数の表現があるものについて

手話単語の中には、１つの日本語の意味に対し、複数の手話表現があるものがあります。本書でもよく使われるものなどは、複数の手話表現を紹介しています。

ただし、日本語の意味としては同等であっても、用法が違う場合があることに注意してください。

（例）反対（P.188 参照）……（Ａ）意見が対立するときなどに使います。

（Ｂ）「逆」「あべこべ」の意味で使います。

2 ＤＶＤの使い方

（1）例文教材ＤＶＤの概要

①ＤＶＤの内容について

例文教材ＤＶＤでは、手話技能検定３・４級の試験範囲のうち３・４級で学習する例文を収録しています。なお、５級までに履修する例文については、弊社の『手話技能検定公式テキスト５・６・７級』をご参照ください。

②ＤＶＤの特徴について

映像とともに流れる音声と、映像の下に表示される字幕は、ボタンを操作することで入れたり消したりできます。

手話表現のレベルアップをめざす方や、手話技能検定３・４級の試験対策として利用される方は、字幕や音声の入っていない状態で読み取りにチャレンジしてみてください。

（2）ＤＶＤの操作方法

1 ＤＶＤをプレーヤー（またはパソコン）に挿入します。

2 トップメニューを表示させ、見たい級を選択します。

ＤＶＤを挿入すると、自動的にトップメニューまで進みます（プレーヤーやパソコンの環境によっては、自動的に進まない場合があります）。

カーソルを動かして、「４級例文」か「３級例文」を選びます。

3 見たい例文を選択し、字幕と音声を設定します。

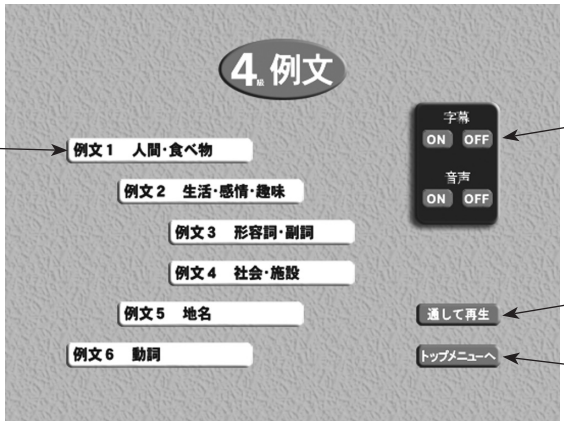
メニューの中から見たい例文を選び、カーソルを動かします。選択しない場合は、「通して再生」に設定されます。また、字幕の「ＯＮ／ＯＦＦ」、音声の「ＯＮ／ＯＦＦ」を選びます。

リモコンなどの決定ボタンを押すと、その例文から各級の最後まで動画が再生されます。

●トップメニュー●

4級例文か3級例文を選びます。

●メニュー画面●



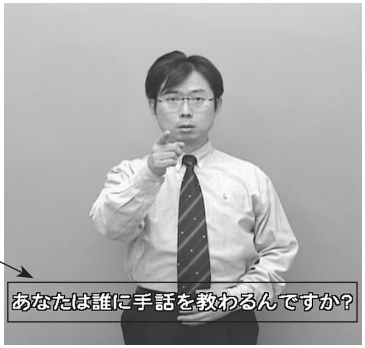
見たい例文を選びます。

字幕と音声の ON/OFF を選びます。

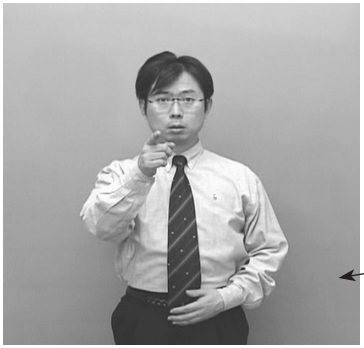
例文を選ばない場合は例文１から通して再生されます。

トップメニューの画面に戻ります。

●例文●



字幕ON



字幕OFF

例文の文章が表示されます。

例文の文章は表示されません。

●ＤＶＤのご利用にあたって●

■ご利用になる前に

・ＤＶＤビデオは、映像と音声を高密度で記録したディスクです。ＤＶＤビデオ対応のプレーヤーで再生してください。

・各再生機能につきましては、ご使用になるプレーヤーおよびテレビ・パソコン等の取扱説明書を必ず参照されたうえでご利用ください。なお、プレーヤーの機種によっては、正常に動作しない場合があります。

■取扱上の注意

・ディスクは両面とも、指紋・汚れ・傷等をつけないように取り扱ってください。

・ディスクには両面とも、鉛筆・ボールペン・油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼り付けたりしないでください。

・ディスクが汚れたときは、メガネ拭きのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽く拭き取ってください。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないでください。

・ひび割れや変形があるディスクは使用しないでください。また、接着剤で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないでください。

■保管上の注意

・直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないでください。

・ご使用後、ディスクは必ずプレーヤーから取り出し、ディスクケースに入れて保管してください。

・ディスクケースの上に物を置いたり落としたりすると、ケースが破損しケガをすることがありますので、ご注意ください。

■健康上の注意

・本ＤＶＤビデオをご覧いただく際には、部屋の中を明るくし、テレビやパソコン画面に近づきすぎないようにしてください。

・長時間続けてのご鑑賞は避け、適度に休息をとるようにしてください。

■著作権と免責事項

・本ＤＶＤは、一般家庭での視聴を目的に販売されています。したがって、本ＤＶＤビデオおよびパッケージに関し、著作者、領布権者等の許諾なく、上記目的以外のご使用（レンタル・上映・放映・複製・変更・改作など）、その他の商行為（業者間の流通､中古販売など）をすることは､法律で禁止されています。

・本ＤＶＤを利用したことで、利用者が被った損害や損失、トラブルについて、弊社はいっさい責任を負いません。

第 1 章

手話と手話技能検定の概要

ここでは手話の基本と手話技能検定の概要を紹介します。手話のレベルを上げることで、楽しくしっかりとしたコミュニケーションがとれるよう、学習の手がかりをつかんでください。

1 コミュニケーションとしての手話

私たちの顔が一人ひとり違うように、聴覚にしょうがいをもった人の聞こえの状態もまちまちです。生まれつきまったく聞こえない人、途中から聞こえなくなった人、補聴器をつければだいたいわかる人……。その人の環境によってコミュニケーションの方法も一人ひとり違ってきます。

「聞こえない」と聞いてすぐに「手話」と決めつけず、まずは相手の聞こえない状態と、どのようなコミュニケーション手段を望んでいるのか、それを尋ねることから始めてみましょう。

（1）コミュニケーション方法とその留意点

聴覚にしょうがいをもった人との実際のコミュニケーションにはいくつかの方法がありますが、これらはどれか1つを使うというわけではなく、場面に応じていくつかの方法をうまく組み合わせて、相手に確実に伝えることを心がけてください。

●**手　話**……日本語の単語をただ手の動きに置き換えたものではなく、独自の文法構造をもっています。

注意点

- 必ずしもすべての聴覚しょうがい者が、手話を知っているわけではありません。
- 手話は国によって違います（世界共通ではありません）。
- 地域や年代、個人によっても、表現が異なる場合があります。
- 右利きの人は右手で、左利きの人は左手で表現してかまいません（右手と左手で表すことによって意味が変わるということはありません）。

●筆　談……紙などに文字を書いて伝えるもので、一般的に多く使われます。後まで残るので記録としても使えますし、他の手段でコミュニケーションしていても、重要なことは筆談すると確かです。空中にゆっくりと文字を書く「空書（くうしょ）」と呼ばれる方法もあります。

注意点

- 文章力、読解力のある人とない人がいます。
- 文章は簡潔にわかりやすく、短いものを心がけましょう（二重否定やえん曲な表現は、わかりにくく誤解のもとになります）。
- ろう者の文章がわかりにくいときには、助詞をはずして読むのも 1 つの方法です（手話には助詞がないので、助詞を間違って使う場合も少なくありません）。
- ひらがな、カタカナでなく、できるだけ漢字交じりの文章で書くようにしてください。ろう者はふだん新聞や本などから視覚で情報を得ていますので、漢字の意味は理解していても、その読み方がわからない（耳で聞いたことがない）ので、表音文字であるカナはかえってわかりにくいのです。

●読　話……相手の唇の動きを見て、話の内容を理解する方法です。

注意点

- 自分の後ろに太陽やライトがあると、逆光になりまぶしくて読みとれません。カーテンを引く、座る位置を替えるなどの工夫をしてください。
- 「1（いち）」「2（に）」「7（しち）」などは、唇の動きはほとんど同じです。そのような場合は、同時に指でも数字を示すなどの工夫をしてください。
- 相手の顔を見ながら、はっきりと話します。しかし、「こ・ん・に・ち・は・き・ょ・う・は・い・い・て・ん・き・で・す・ね」と区切るのではなく、「こんにちは・今日は・いい天気・ですね」と文節で区切ります。

●**補聴器**……音を大きくする器具です。しかし、聞きたい声だけでなく周囲の雑音まで大きく聞こえてしまいます。

注意点

- 補聴器が音を大きくしているので、さらに大きな声を出すとかえって聞きにくくなります。補聴器をしている側から、ゆっくりと文を区切るように話しかけてください。

●**その他**……表情や身ぶりも、おおいに活用しましょう。

（2）プラスアルファの心配り

聞こえない人の情報収集は、ほとんどが視覚からのものです。手話で話しかけても、こちらを見ていなければ伝わりません。話しかけるときは、しっかりと目を合わせてから始めましょう。また、ろう者は手話だけでなく、唇の動きからも情報を得ています。「手話をしているのだから」と無言になるのではなく、できるだけ言葉といっしょに手話をするのもよいことです。

表情の変化にも敏感です。手話では、表情が文法の一部や感情表現にも使われています。ろう者の表情の豊かさに驚かれることもあるでしょう。こちらも気持ちをおおらかに、表情豊かに表現してみましょう。手話以上にうまくあなたの気持ちを伝えることができるでしょう。

手話の技術を磨くことは、コミュニケーションをより確かで誤解の少ないものにします。けれども、その土台には、人と人とのコミュニケーションの基本である笑顔やマナー、信頼関係といったものが必要不可欠であることを、どうかしっかりと認識してください。

（3）手話のいろいろ

手話は言語的に、大きく 3 つに分類することができます。

①日本語対応手話

日本語と同じ語順で、助詞の「て・に・を・は」も指文字を使ってすべて表現します。これは日本語の文法をそのまま使っていますので、難聴者や中途失聴者、または手話を学習する健聴者にとっては覚えやすいのですが、助詞などもすべて表現するので、一文の中で表現する手話の単語数が多くなってしまいます。

②日本手話

日本語とはまったく異なる文法をもつ 1 つの独立した言語で、日本語とは語順が大きく違います。口の形も日本語の形をなぞるのではなく、独自のルールがあります。

たとえば、「得意」を意味する手話のところでは、「ポッ」というような口を丸めて息を吐き出すような形にします。ろう者にとってはもっともわかりやすく、視覚的な情報を盛り込んだ自然な表現です。このように、日本語とは違う表現方法が豊かにありますが、完全にマスターするためにはかなりの時間と努力が必要です。

③中間手話

①の日本語対応手話と②の日本手話の要素を混合したものです。助詞の「て･に･を･は」は特に表現せず、口の動きで伝えます。語順も「なに」「いつ」などの疑問語も日本語と同じ語順で、①の日本語対応手話に近くなっています。

日本手話のように難しくはなく、また日本語対応手話のようにすべての話し言葉を表す努力も省けるので、現在では手話通訳や手話サークルなどでもっとも普及しているコミュニケーション方法です。

①～③の３つの手話は、それぞれ独立したものでなく、人によって日本手話に近い表現をしたり、日本語対応手話に近い表現をする人がいると考えたほうがよいでしょう。また、ろう者同士の会話では日本手話を、手話を学習中の健聴者や難聴者との会話では日本語対応手話をというように、相手や場面によって手話を使い分けている人もいます。

（4）手話の変化

江戸時代の日本語と今の日本語は違います。また、年配の方の言葉づかいと中学生の言葉づかいも異なります。地域には方言もあります。このように、時代、年齢、場所などにより、いろいろな表現法があるのが言語です。

手話もまた同じです。たとえば、「日曜日」という手話を東京では「カレンダーの赤＋お店が閉まる」と表しますが、大阪では「カレンダーの赤＋お父さんが家で寝ている」と表します。「電話」の手話は、昔は左手の受話器を耳に当て、右手でハンドルをぐるぐると回す旧式の電話でしたが、今はＣＭでもよく見る親指と小指を立てた形で表すようになり、近年では人差し指を立てた「携帯電話」という表現もあります（P.35 参照）。

また、社会の認識の変化によって新しくなった手話もあります。「ボランティア」の手話は、以前は恵まれた人が恵まれない人のために何か苦労して奉仕するというイメージから、「苦労」を相手に「ささげる」と表していましたが、現代では「人と人がともに歩んでいく姿」で「ボランティア」を表すようになりました（P.247 参照）。

現在ではあまり見られなくなりましたが、昔は男手話、女手話というものがはっきり区別されていたようです。手話は言葉であり、言葉は生きています。これからも時代の変化とともに手話は変わっていくことでしょう。